

Topに
聞

商業施設や高層ビルで壁面や屋上、店舗の周りを緑化する動きが広がっている。ゴバイミドリ(5×緑、東京)は里山の人たちと連携し、商業施設など建物があるエリアの在来種(山野草)を使った緑化事業を行っている。都市は季節感を失いつつある一方で環境対応を迫られている。地元の山野草で街をおしゃれに彩ることができれば、高層ビルや商業施設、ファッション系店舗の新たな魅力にもなる。

(小川敬)

最近、都市でも高層ビルや商業施設、店舗の周りや屋上、壁面に緑を取り入れるところが増え、少しずつ季節感を取り



ゴバイミドリ代表 宮田生美氏

戻しつつあります。街を彩るのに緑がどれだけ重要な役目を果たすのか、誰もが気付くようになりました。私たちは里山の人たちと協力して日本在来種の緑を都市で育てることで、街の魅力度を上げる「都市(まち)のブランド化」に貢献し、来街者(来場者)を増やすとともに環境対応を進める仕事をしています。

都会には土がありません。土があればそこに植栽することで緑が増え、街の相が一変するのですが、都市では土があること自体珍しい。土がないとなればそれに代

新システムで都市を緑化

わる植栽システムが必要です。福岡のアクロス福岡の建築に携わったランドスケープデザイナーの田瀬理夫さんが開発した建築緑化システムを原型にした方法で緑化事業を進めています。

具体的には、その地域の山野草を使い、植物を長期にわたり少しずつ成長させる人工軽量土壌、壁面・側面の植栽を可能にする数十年の耐久性を持つカゴ・金網、適した業者や職人のネットワークをベースに、ゼネコンが手掛ける高層ビルや商業施設、美術館、幼稚園、ファッションや飲食店(路面店)、さらには個人の邸宅などで実績を積みんでいます。

東京・代官山のファブリック店(路面店)のエントランスや山種美術館、味の素スタジアム西競技場などの緑化計画に携わり、街に土のおおみや緑の心地良さを提供しています。住宅やビルは何十年

も存続します。緑もその地域に生えているものを植えることでビルや店、住宅が自然に溶け込み、地域としての特徴を出すことができます。山野草は華やかではありませんが、楚々とした優しい花をつけます。

建築の工事日程と植物にとつて良い季節が合うとは限りません。そこで茨城や栃木の造園業者と組んで、植物にとつて望ましい時期に育苗場で植育し、必要な量を蓄えてそれを現場に持ち込むという、ユニット形式の事前育成の技術を活用しています。

こうした価値観を共有・共感できる人たちとつと出会いたいと思っています。また、山里の人たちとの交流機会を増やし、山で営んでいる人たちの励みにもなりたい。九州や西日本の育苗場や林業家との連携にも足を踏み出します。

緑を介して何気ない細部を満たす仕事の大切さを分かち合えるネットワークを広げ、街に緑をもっと増やしていきたい。

街を緑いっぱいに彩る